記して、「曷董城者、契丹之北土也、使余覩北行、以覩乃契丹族類知其巣穴」と釋き、次に「起燕雲民兵、北攻曷董城」と記して「曷董城、自雲中由猫兒莊銀甕口、北去地約三千餘里、盡沙漠無人之境」と釋けり。これによりて考ふれば、大石の走りしといふ可敦城は、即ち大金國志の曷董城にして、志の同十年の條に余覩の「軍合董也、失其金牌」と記せる合董と共に、皆同一地名を寫したるものに外ならざることを認むべし。而して此の可敦城については更に遼史聖宗紀に、統和「二十二年、以可敦城爲鎭州、軍曰建安」と見え、また鎭州については、「開泰二年春正月、達旦國兵圍鎭州、州軍堅守」、「三月耶律化哥、以西北路略平、留兵戍鎭守、赴行在」等と記され、更に同書地理志上京道邊城防の條に「遼國西北界防邊城、因屯戍而立、務據形勝云々」と序して、「鎭州建安軍節度、本古可敦城、統和二十二年皇太妃奏置、選諸部族二萬餘騎充屯軍、專捍禦室韋羽厥等國、……東南至上京三千餘里」と記せり。されば本文の可敦城なるものは、まさに金の鎭州を指せるものと見ざる可らず。但し可敦城と名くるものも亦一所に非ず。遼史地理志雲內州條下に見ゆる古可敦城の如きは、其の位置の上よりして、こゝに述ぶる所と相關するなきは明らかなれど、北方に於ても亦た同名の地あり。即ち遼史地理志上京道邊城防の條に「河董城、本回鶻可敦城、語訛爲河董城、久廢、遼人完之以防邊患、高州界女直常爲盜、劫掠行旅、遷其族於此、東南至上京一千七百里」と記せるものにして、可敦といふも河董といふも共にトルコ語の Khatun 即ち可汗の妻の義を音譯したるにすぎざれば、此れが同一の名稱たるは明らかなり。而して兩地は遼の上京、即ち今の東蒙古巴林の東北波羅城地方を標準として、等しく東南に數へたる道里に於て一千三百餘里の距たりを有するものなりとす。されば大石の走りし可敦城は此等の中の何れなるか定めがたきが如くなるも、然も遼史地理志は續きて靜邊城なるものを擧げ